

令和5年10月5日
東住吉森本病院 研修医 江本美結

大阪府の東住吉森本病院研修医2年の江本美結と申します。9月4日から29日まで、地域医療研修医として受け入れいただきありがとうございました。私も過去の研修医の皆さんと同様に、外来診療や病棟管理、手技や施設訪問、往診や検死など院長先生の指導の下あらゆる経験をさせていただきました。

私がこの1か月を通して一番成長できたと思うところは、自分で試行錯誤する、ということでした。安藤先生にいつでも頼ることができる環境ではありますが、相談するにもまず試行錯誤する必要があります。具体的にはなぜこの患者の画像検査を今追加で行う必要があるのか、なぜこの患者は専門機関に転送する必要があるのか、転送先で何をしてほしいのか、など自分の中で考えを整理する必要があります。普段研修している森本病院でもそうしていたつもりでしたが、『明日の朝まで命が繋がればいいや、そうしたら上級医の先生がなんとかしてくれる。』とどこか他人任せになっていたところがあったのではないかと反省しました。まさか地域医療研修先で八戸市民病院や赤十字病院の先生に転送依頼を直接お話しする機会があるとは思っていませんでしたが、勉強になりました。そして研修医の主体性を尊重して任せてくれる貴重な環境なので、それを無駄にしないようにわからないことは本で調べて勉強しました。小児のCTの撮像基準や糖尿病薬の調整の仕方など、普段は遭遇する機会の少ない疑問を同期と相談しながら勉強しました。

その反対に一番うまくいかなかったことは患者説明です。どれだけうまく言葉を選んだつもりでも、「いきなりがんが見つかりました、どうしますか、と言われても患者家族には伝わらないよ。」と安藤先生に言われてはっとしたのを覚えています。疾患を見つけて治療を開始することに必死になりすぎていました。一番の基本だと思うのですが、患者やその家族に寄り添っていけるようこれから努力したいです。

また他院の同期と研修できたことも刺激になりました。外科志望なのに内科管理をしっかり学んでいこうとするその真摯な同期の姿勢は、自分を省みるきっかけになりました。

私のこのような成長や反省点、また他の歴代研修医の皆さんが述べているように、たくさんのお話を学ぶことができる環境です。文字で書くのは簡単なので今後研修医になっていく皆さんもぜひ実際に研修して感じてほしいです。

そしてそれ以上に大切なことは、この1か月を楽しんだことです。院長先生なのに腰が低くて話しやすく仕事ではもちろん、一緒に出掛けてくれる気さくな安藤先生のおかげですごく楽しい1か月でした。またはじめましてなのにすっかり仲良くなれて最大限の時間をいつも一緒に過ごしていろんなどころに連れてくれた同期の角田先生の存在も私の1か月の支えでした。そして病棟スタッフのみなさんにはいつも助けられていました。越後さんをはじめとして管理班の皆さんはいつも私たち研修医のことを気にかけてくださり、皆さんに支えられ非常に充実した1か月を過ごすことができました。いろいろなこと

が思い出されて大阪に着いて一人で号泣してしまった思い出深い研修でした。お世話になった皆さん本当にありがとうございました。今後ともよろしく申し上げます。